

令和4年度実施分

<p>施策3-1-3</p>	<p><b>農畜産物の販売と6次産業化を推進します</b></p>
<p>評価</p>	<p style="text-align: center;"><b>C やや遅れている</b></p> <hr/> <p>基本施策3-1の成果指標である「農業産出額」の実績が74.4億円で、目標値の89.9億円を達成しておらず、施策の進捗はやや遅れている。</p> <p>基本事業の「農産物の販売促進」については、JA系統出荷が主軸である中で、市場（消費者）が求める品目の絞り込みをJAと連携のうえ進め、産地化を強力に推進する必要がある。農業生産額を伸ばすためには、JA系統出荷以外にも大消費地への販売促進が必要であり、これまで以上に観光業など他産業と連携を図りながら、トップセールス等による販路開拓に力を入れる必要がある。産直施設の周年販売や農産物提供認定店制度の充実を図り、栽培技術指導と情報発信を強化しながら、改善のうえ継続していく必要がある。</p> <p>「地産地消の推進」については、地産地消に対する町内のホテル・旅館・福祉施設、医療施設等の理解を深め、食材流通システムの強化を図る必要がある。町民理解の増進のためには（仮称）地産地消推進条例を制定することも効果的である。学校給食への町内産野菜使用については、使用割合50%超を目指し、学校と産直の結びつきを一層支援する必要がある。グリーーツーリズムの受入れ態勢を強化するほか、児童・生徒への食育指導を継続していく必要がある。</p> <p>「6次産業化と食文化伝承の推進」については、アグリビジネス応援事業の実施者が0人であり、農業者の意欲を高める制度設計に改善が必要である。6次産業化の取り組みは農業所得を拡大するうえで重要であり、当町の自然環境、生産される農畜産物から、取り組みが可能な形態を調査研究し、専門的に分析し、データに基づいて奨励する取り組みが必要である。町独自の農産加工研究を促進するほか、農産加工施設の効率的な稼働方法の検討や加工技術の指導、郷土料理教室の開催を強化するなど、改善のうえ継続していく必要がある。</p>

当局の評価	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	概ね順調	概ね順調	概ね順調

◇施策の進捗評価の目安（4段階）

A 順調	計画どおり進んでいる
B 概ね順調	概ね計画どおり進んでいる
C やや遅れている	計画より遅れている
D 遅れている	明らかに計画から遅れている

<基本事業の評価>

基本事業	方向性	委員会の評価
<p>農畜産物の販売促進</p>	<p>改善のうえ継続</p>	<p>①JA系統出荷と連携した販売促進は、継続していくことが不可欠であり、市場（消費者）が求める品目の絞り込みをJAと連携のうえ進め、産地化を強力に推進する必要がある。</p> <p>②農業生産額を伸ばすためには、JA系統出荷以外にも大消費地への販売促進が必要であり、これまで以上に観光業など他産業と連携を図りながら、トップセールス等による販路開拓に力を入れる必要がある。</p> <p>③町内に多く点在する産直施設での周年販売の促進も重要であり、ニーズに対応した生産調整や冬期間の品ぞろえといった課題の解決に向けた営農指導を充実する必要がある。</p> <p>④農産物提供認定店が前年比で19店減少したことへの対策を早急に進める必要がある。取組者が認定店のメリットを感じられるよう、看板の付与だけでなく、特典などを検討する必要がある。消費者に関心を持ってもらうため、生産者名やコメントを掲示する取り組みも検討する必要がある。</p> <p>⑤冬季栽培新規取組者が5人で、前年から伸びていない状況であることから、農業関係団体等とともに他産地を調査のうえ奨励作物を選定し、技術情報の発信と栽培指導を積極的に推進する必要がある。</p> <p>⑥地産食楽部Facebookの発信回数が増加したことは評価できるが、インターネット販売やSNS等の情報発信をさらに強化する必要がある。</p>

<p>地産地消の推進</p>	<p>現状のまま継続</p>	<p>①食材流通システムの取引額が12,557千円で、前年に比べ増額したものの、コロナ禍前の水準には戻っていないことから、地産地消に対する町内のホテル・旅館・福祉施設、医療施設等の理解を深める取り組みを強化する必要がある。</p> <p>②学校給食への町内産野菜使用割合が49.1パーセントと前年比12.5ポイント増加したことは評価できるが、地産地消をさらに推進するためには、使用割合50%超を目指し、学校と産直の結びつきを一層支援し、材料の掘り起こし等によって町内産野菜の使用を促進する必要がある。</p> <p>③グリーンツーリズム受入農家が8戸減少しており、目標の「零石ファン」を増やしていくためには早急に受け入れ態勢を強化する必要がある。</p> <p>④生産者の高齢化は深刻な問題であり、農産物の消費拡大と安定供給のためには、農業に対し、若者に興味を持ってもらうことが重要であり、現在行っている学校農園や中学校家庭部の活動を通じた食育指導を継続していく必要がある。</p> <p>⑤地産地消を推進するためには、(仮称)地産地消推進条例の制定によって町民理解を深めていくことも効果的である。</p>
<p>6次産業化と食文化伝承の推進</p>	<p>改善のうえ継続</p>	<p>①アグリビジネス応援事業の実施者が0人であり、農業者の意欲を高める制度設計に改善が必要である。</p> <p>②農業者の高齢化が進み、6次産業化への取り組みが減ってきているが、意欲ある農業者に対しては、販売が軌道に乗るまで継続的な支援が必要であり、支援制度を改善する必要がある。</p> <p>③農業所得を拡大する6次産業化の取り組みについて、農業者の意欲を高める周知活動が重要であり、説明会の開催や産業まつり等のイベントを活用した情報提供が必要である。</p> <p>④特産品開発に結び付くような町独自の農産加工研究を促進するほか、現在の町の加工施設が全て使用されていることから、新たな利用希望者を支援するためにも、より効率的な稼働方法の確立と施設の増設を検討していく必要がある。</p> <p>⑤農産加工技術指導は、計画性をもって実施しており評価できる。</p> <p>⑥当町の自然環境、生産される農畜産物から、新たな6次産業化を進めるとしたらどのような形態のものが合致するのかを調査研究し、専門的に分析し、データに基づいて奨励する取り組みが必要である。</p> <p>⑦零石の食文化を次世代に伝えるため、食の匠を活用した郷土料理教室などを積極的に開催する必要がある。</p>

◇基本事業の方向性(4段階)

- |         |   |                                      |
|---------|---|--------------------------------------|
| 拡充      | : | 主に事業の予算規模や事業の対象を拡充することが望ましいもの        |
| 現状のまま継続 | : | 事業を現状どおり進めることが望ましいもの                 |
| 改善のうえ継続 | : | 事業の対象や実施手法等を改善して進めることが望ましいもの         |
| 見直し     | : | 事業の規模縮小又は休止・廃止を含め実施手法等を検討することが望ましいもの |